

国際医療センター教員研究棟・教育研究棟

西川 亮¹⁾, 合川 公康²⁾

- 1) 国際医療センター 教員研究棟研究室運営部会委員長, 脳神経(脳脊髄腫瘍科)
- 2) 国際医療センター 教員研究棟研究室運営部会, 消化器外科

1. 所在

〒350-1298

埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター教員研究棟7階ならびに教育研究棟1階

2. 施設・設備

教員研究棟7階研究室は、通常の実験室に加えて、鏡検室、細胞培養室、Deep freezer室が設けられていて、分子遺伝学ならびに分子生物学的研究における基本的設備を備えている(図1, 2, 3)。

教育研究棟1階ウェットラボには136m²の広い手術室があり、大動物手術が同時に6列可能となっている。実際に臨床で用いられている手術デバイスが導入、設置されており、病院手術室同様の設備となっている。更衣室や休憩室、シャワールームも完備されており、実験やトレーニング参加者にも十分な配慮がされている。

3. 利用方法と利用料

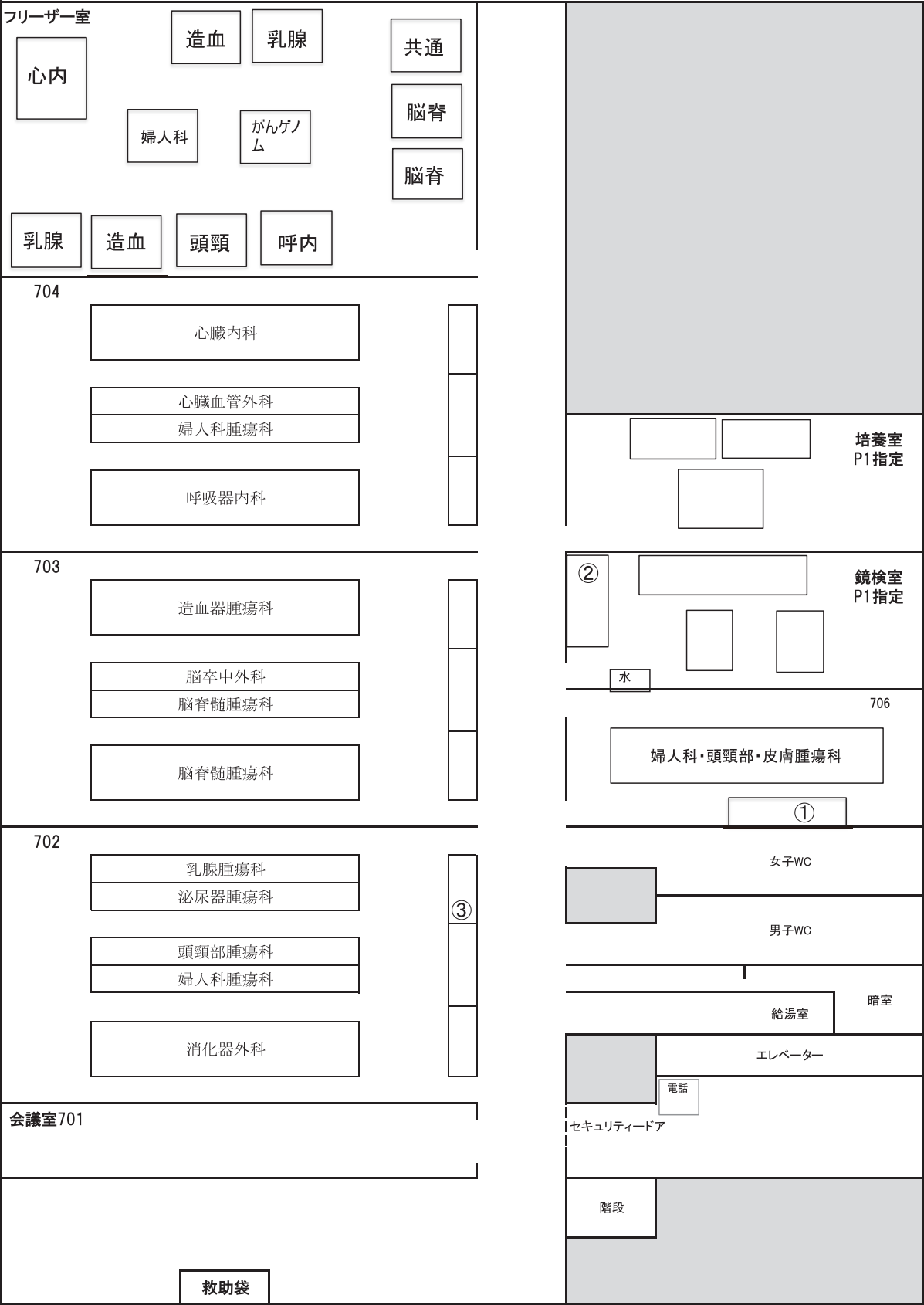
教員研究棟7階研究室については、同運営部会に対して年度初めに利用申込書類を提出し、審査を受ける。2007年に当研究室が開設されてから、変わらずに実験台の割り当てを受け研究を継続している診療科もあるが、人事の異動などによって様変わりしたり、新規に参加となった診療科もいくつかある。培養室や鏡検室内のスペースや機器割り振りについては実務者の相談によって決められている。利用料は上下水道料、電気ガス料、清掃委託費、廃棄物処理委託費、施設管理委託費に若干の共用備品等購入費を加えた額について使用診療科で分担する形となっている。具体的には占有実験台の広さに応じて年間20万円～60万円程度である。

4. 利用実績・業績、42篇

教員研究棟7階研究室

教員研究棟1階ウェットラボフロア

こちらは平成29年度にオープンしたばかりで、平成30年3月25日初期研修医への手術導入トレーニングとして、大動物(ブタ)を使い、全身麻酔下で腹腔鏡手術、開腹手術のトレーニングを行った(図4)。参加した研修医の先生は、緊張感を持ち、電気メスの使い方から体腔への到達法までの指導を受け、とても有意義であったとの感想を述べていた。大動物で電気メスを用いて開腹、開胸することは、米国では実臨床に出る前の必須トレーニングであり、医学生は何度もこのようなウェットラボを経験することが一般的であるが、この点において、日本は非常に遅れていると感じており、さまざまなウェットラボを企画したいと考えている。但し、豚コレラ、豚インフルエンザ、そして昨今のコロナウイルスによりブタの供給や流通がストップしてしまい現在中断中である。このフロアの新しい役割として、当院に本邦で初めて導入された手術支援ロボットである「センハンスロボットシステム」のトレーニング施設としての計画も進んでいる。ロボット研修プログラムには、大動物を使ったトレーニングが必須であり、当院はこのシステムの普及にトレーニングの場を提供し、今後は他施設の医師が研修に訪れることにもなっている。

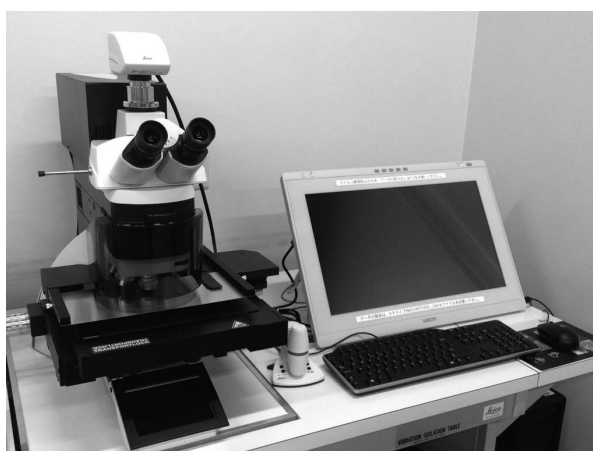


- ①Light Cycler 480 (Real-time RT-PCR System): Roche (図2A)
- ②LMD-7000 (Laser Micro Dissection System): Leica (図2B)
- ③Genetic Analyzer 3130 (DNA sequencer): ABI (図2C)

図 1 教員研究棟 7 階研究室の配置



A. Real time PCR



B. Laser microdissection



C. Sequencer.

図2 教員研究棟7階研究室備品



図3 培養室



図4 教員研究棟1階ウェットラボフロア